

浜の宮小学校だより 3月号 (臨時号)



まつぼっくり

学校教育目標
こころ豊かにたくましく 生きる力を育てる

めざす児童像

- はっきり話し、自ら学ぶ子
- まっすぐな心で、助け合う子
- こころも体も元気な子

皆様方のご協力により、「令和6年度 学校評価・学校関係者評価」を終えることができましたことを本紙面にてご報告申しあげます。この評価を生かして、次年度も本校教育活動の改善に取り組んでまいります。1年間、ありがとうございました。なお、本臨時号はホームページにも掲載されます。

令和6年度 学校評価・学校関係者評価（報告）

評価の観点	評価項目（取組内容） ◎はR6最重要取組事項	評価		◎取組状況 ・ ◇改善の方策
「確かな学力」の確立	○学習習慣および知識・技能の定着による、学習意欲の向上促進 ○協同的探究学習を核とした授業改善の推進 ・思考力・判断力・表現力の育成 ・自己有用感の醸成 ◎知識・技能の定着、および協同的探究学習における ICT 活用に向けての研究・体制整備	4 4 4	4	○授業中の個人の考えについて ICT を用いて、グループや学級に共有させた。特に道徳では、ポジショニングを使用することで、登場人物の葛藤する様子を深く考えることができた。 ○モジュールで学習習慣を身につけさせられた。これまでの実践をもとに、国語だけでなく社会でも授業改善をはかった。 ◇わかる学力の達成に向けた課題を設定する機会を増やしていく。できる学力についてはスモールステップで課題を設定し、各学年のつけたい力を取りこぼすことが減るように改善したい。
「豊かな心」の育成	◎「子ども同士の良好な関係づくり」に向けた、コミュニケーションを重視した児童の主体的取組の推進 ○教育活動全体に人権教育を取り入れることによる、「いのちと心」を大切に する人権感覚の向上促進 ○「特別の教科 道徳」の授業展開による、他者とともによりよく生きていくための基盤となる道徳性の育成	4 4 4	4	○子どもたちの発達段階や現在の状況を考慮して、教材を選択し、道徳の時間を主として「豊かな心」の育成に取り組んできた。 ○道徳の時間の指導や人権学習を通して、人として大切なことや価値判断の力を育んでいくようにした。友達の良さを発見させ、感謝の気持ちを大切にするなどして集団の質を高めていくようにした。 ◇道徳ノートで児童が考えを書きやすくなったので、今後は「学習のはじめと終わりの心の変化」が実感できるような授業づくりを心掛けたい。
「健やかな体」の育成	○学習指導要領および児童の興味・関心を踏まえた、体力・運動能力向上に向けた指導計画の実施・改善 ◎健康・安全教育の推進による、感染症等への自身の危機管理に向け、主体的に判断・行動できる力の育成 ○食育・保健指導の組織的・計画的推進	4 4 4	4	○体育では、体の動かし方を考えながら、積極的に何度も挑戦する姿が見られる。友達同士のアドバイスにより、運動への意欲が高められた。 ○体育担当・養護教諭等を中心に取組み、自身の身体や健康への意識が高められた。 ◇1時間の授業の中でどのように目標に迫っていくかを常に意識しながら、授業をつつていくことに持続的に取り組む。食育の観点に立って給食指導を行っていく。
特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育システムの理念に基づいた、相互理解のための交流活動・共同学習の充実 ◎適切な支援計画・指導計画の作成と、対応の共通理解 ○ユニバーサルデザインの授業づくり等に向けた研修による教員の専門性の向上 ○保護者および関係機関との連携を密にした支援・指導の充実	4 4 4 4	4	○支援計画を作成し、保護者や関係機関との連携が図れた。その結果、本人の意欲向上や目標達成につながった。 ○一人ひとりの発達段階や特性に応じながら、様々な体験活動を通し実施した。それらの活動を通して、社会のルールや相手とのコミュニケーションを学び、生きていく力を高められた。 ◇できるだけ早い段階で要支援や困り感を持つ児童には、保護者と連携することや、関係機関につなげるようにしていきたい。
児童生徒理解に基づく生徒指導	◎基本的な生活習慣と規範意識の醸成 ・挨拶 ・3つのそろえる ・「だまじカ」清掃 ○安心して帰属できる学級づくり ○子ども同士の良好な関係づくりに向けた、児童会・委員会活動を主体とした「心の絆プロジェクト」の一層の充実 ○規範意識や思いやりの心を養うなど、「心の教育」の充実を目指した、自然学校や環境体験事業、ゲストティーチャー招聘等の体験活動の充実 ◎児童の内面理解に基づく指導の充実と心のケア ・教育相談の充実 ・定期的なアンケートの実施 ・関係機関との積極的連携 ・校内サポートルームの有効な活用に基づく不登校児童への対応の充実 ○問題行動（いじめ問題等）の未然防止、早期発見・早期対応	4 4 4 4 4 4	4	○基本的な生活習慣については繰り返し呼びかけるとともに、学級でグループごとに週に分けて意識させた。一度に全てのことができなくとも一つずつ意識することや、よくできている友達の姿を見ることで自主的に行える児童が増えた。 ○部会や職員会議など定期的に児童の様子について情報交換してきた。 ○子どもたちの様子を把握し、すぐ学年間で話し対応してきた。その後の報告も行ってきた。 ○休み時間には、児童の様子の変化に気付けるように教室で過ごしている。また、忘れ物や宿題を忘れるなどをした児童には、忘れたことに対してだけを指導するのではなく、どうすれば解決できるかを共に考えて児童目線での指導に努めている。 ◇問題を個人で抱え込むことのないように、関係する職員が組織で対応を考え、具体的な指導を行う。今後もより一層保護者や関係機関と連携を密にしていきたい。
質の高い学習環境づくり	○危機管理を踏まえた安全・安心な教育環境の整備 ○学校評価を生かした教育活動の定期的な見直しと改善 ◎「超スマート社会」に必要な学びの実現に向けた、ICT 環境の整備	4 4 4	4	○安全点検を毎月行って、安全環境の整備に配慮してきた。授業の中で ICT の活用を計画的に行い、子どもの ICT スキルをアップに取り組んだ。学習コンテンツを活用することで、児童が意欲的に個別に学習を進め、基礎基本定着に効果があった。 ◇まだまだ ICT 活用で使われていないところもあり、様々な活用スキルを学び、授業実践に取り入れていくことが必要である。特に教師と子ども、子ども同士の交流ができるように活用させていきたい。
家庭・地域との連携	◎学校だより・学校ホームページによる、教育活動の積極的発信 ○学校運営協議会を基盤とした「協働」活動の実施 ○学校支援ボランティア等の、地域教育力・教育資源の活用 ○「学校園連携ユニット」の取組の更なる充実	4 4 4 4	4	○ミシンボランティアさんについて、手が回らないところまでご協力いただけがあった。 ○地域の方がゲストティーチャー（シニアボランティア）などに来てくださることで、児童の興味や知識が広がっている。 ◇子どもたちへの指導だけでなく、必要に応じてスクリレや学年だよりなどを活用し、今後も具体的に発信していきたい。
教師力の向上	○全教職員の校内研修への積極的取組と、校内 OJT を活用した教師力のスキルの伝承 ◎「協同的探究学習」「ICT 活用による授業」に向けた研究推進体制の充実 ○業務改善に向けた組織的取組の推進による、子どもと向き合う時間の確保	4 4 4	4	○教師間で情報共有をすることで問題行動が起きた際など、チームで対応している。 ○人権や職場倫理などの研修に取り組めた。指導の在り方を、自分なりに取り入れて更新し、新たな観点で子どもたちを観ていくように改善できた。 ◇教職員の確保、組織力を高めるために連絡相談検討したこと、職員全体で必要なことを周知徹底していきたい。

4 保護者アンケート集計及び主なご意見・ご提案

＜保護者アンケート集計から＞ 設問①「喜んで学校に通っている」・・・93%（前年度 82%） 設問④「思いやりがあり親切」・・・90%（前年度 93%） 設問⑦「安全や健康に気をつけて」・・・92%（前年度 93%） 設問⑨「学校と家庭との連携は図れている」・・・89%（前年度 88%） ＜ご意見・ご提案から＞ ・登下校の際、車を見て飛び出すような仕草をする児童がいるので、もう一度安全意識を徹底してほしい。月一でもいいので、衛生チェックをしてほしい。 ・担任の先生が、よく子供を見てくれるので感謝しています。そのおかげで子供達は楽しく学校へ通えていると思います。
--

5 学校関係者評価

学校自己評価に関する評価 及び 観点別の評価・意見等
「確かな学力」の確立について ・ICT を活用して学習している。学習意欲は高い。 ・テスト直しやノートの書き方など丁寧に指導されている。 「豊かな心」の育成について ・挨拶する児童は低学年でもしっかりとあいさつができています。 ・道徳の時間などを通して人として大切なことを指導されている。 「健やかな体」の育成について ・朝食をしっかりと取ることが大切である。保護者の意識も大切である。 ・給食が温かくておいしい。魚など栄養を考えて作ってもらえている。 ・養護教諭や担任を中心に組み組めている。 特別支援教育の充実について ・通級学級の開設をお願いしたい。 ・インクルーシブ教育における、児童理解のための保護者との連携がとれている。 児童生徒理解に基づく生徒指導について ・サポートルームの使用状況はどうか。 ・登校しにくい児童については、サポートルームで落ち着かせてから教室に入っている。 ・サポートルームを設けて児童の支援に取り組んでいる。 質の高い学習環境づくりについて ・連絡帳を配信しているので保護者にも伝わりやすい。 ・Chromebook でタイピングや調べ学習を行っている。 ・遊びながら学べる場所が大変良い。 家庭・地域との連携について ・スクリレの導入によって学校とのやり取りがしやすくなった。 ・少年団のソフトボールやバレーボールのチームが減少している。会員が減ってきている。小学校の時ぐらいいは、地域と関わってもよいのではないかな。 教職員の資質及び学校の組織力の向上について ・書写の研究会があり、それに向けて取り組んでいるところである。 ・教師間の連携を図りながら業務にあたっている。複数で指導にあたるように心がけている。

※学校運営協議委員の皆様には、1年間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。